



# 国臨協関信

関信支部ニュース 臨時号 令和7年8月



支部HPアドレス  
https://www.kanshinshibu.org/index.html



支部NEWSアドレス  
https://www.kanshinshibu.org/member/news.html

●事務局／〒162-8655東京都新宿区戸山1-21-1  
国立国際医療センター  
中央検査部門内

●発行者／椎名将昭  
●編集委員／梅戸克之 齋藤ひとみ 岡山真唯 佐藤剛  
●印刷所／一喜堂印刷株式会社 ☎0268-35-2624

## 臨床検査専門職

### 就任のご挨拶

NHO 関東信越グループ  
医療担当 臨床検査専門職

遠藤 隆



この度、令和7年8月1日付で独立行政法人国立病院機構関東信越グループ 医療担当臨床検査専門職を拝命いたしました遠藤 隆と申します。どうぞよろしくお願いいたします。今回、本紙面をお借りしまして皆様に就任のご挨拶の機会を与えていただきましたことを心より感謝申し上げます。

前臨床検査専門職であられました熊谷豊技師長におかれましては、関東信越管内の職員のためにご尽力いただきましたこと心より感謝申し上げます。今回は任期途中での交代となりまして心残りがあると存じております。私自身、大役を仰せつかり身の引き締まる思いではありますが、しっかりと意思を引き継いで誠心誠意務めさせていただく所存でございます。ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

医療業界をとりまく現状としましては少子高齢化、働き方改革、タスクシフト／シェア、医療DXによりさまざまな変化を受け入れることが不可欠となっております。これまで「当たり前」とされてきたことが、もはや通用しない時代へと突入しております。国立病院機構の経営状況は苦境に立たされており、新型コロナの影響による受診控えで患者数は回復せず、保険点数はほとんどの項目が下方修正され、それに加えて医療資材の高騰、人件費、光熱費の増加などが重く押し掛かっています。コロナ以前と以後では社会の姿は大きく様変わりしており、その変化に迅速に対応・適応していく力が、今まさに求められています。

現在、多くの医療機関が赤字を抱えながらも、なんとか持ちこたえているのが実情です。臨床検査部門においても、病院経営に少しでも貢献できるよう危機感を持って取り組み、部門一丸となってその力を結集し、大きな波に変えていければと思います。また喫緊の課題としては「人財の確保」があげられます。2040年には高齢者人口がピークを迎える一方で、少子化により働き手の減少が予想されます。それを補うための医療技術の進歩、医療DXが推進されており、日本最大の医療ネットワークを持つ当機構としても、適材適所の人員配置や働き方改革の推進を通じて、人財を大切に育成し、将来の国立病院機構を背負って立つ人財を輩出したいと考えております。

最後になりますが、私一人の力では到底達成できないことばかりです。皆様方のお力添えがあって初めて成しえることと思っております。私自身も微力ではありますが誠心誠意、職務に邁進したいと考えております。今後は集合型の研修会等でも皆様方にお会いできる機会が増えてくると思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 臨床検査専門職

### 退任のご挨拶

NHO 東埼玉病院

熊谷 豊



令和7年7月31日をもちまして、独立行政法人国立病院機構関東信越グループ 医療担当臨床検査専門職の併任を終了し、後任の遠藤 隆 臨床検査専門職に職務を託すこととなりました。

健康上の理由により、任期途中での退任となりますことを、関係の皆様にご挨拶申し上げます。

令和6年4月1日の辞令発令から今日まで、臨床検査の専門職として、現場の声に耳を傾け、制度と実務の橋渡し役を担うべく尽力してまいりました。短い任期ではありましたが、各地区会の総会・研修会に参加し、現場の皆様と直接対話できたことは、私にとって大きな財産です。

今、医療を取り巻く環境は急速に変化しています。定年年齢の引き上げ、医業収支の停滞、そしてタスク・シフト／シェアの加速。臨床検査部門にも多くの期待と課題が寄せられています。こうした状況下において、国臨協・技師長協議会・臨床検査専門職が連携し、現場の力を結集することで、臨床検査の価値をさらに高め、未来を切り拓いていくことができると確信しております。

今後は、東埼玉病院の技師長として、自施設の運営に専念するとともに、関信支部の一会員として、支部活動を力強く支えてまいります。

後任の遠藤専門職には、第五期中期計画への対応をはじめ、人材育成、タスク・シフト／シェアの推進など、重要な課題が託されます。どうか皆様には、これまでと変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。臨床検査の未来は、現場の皆様一人ひとりの力によって築かれていきます。私もその一員として、これからも歩みを止めることなく、前進してまいります。これまでのご厚情に深く感謝申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

